待降節第１主日　　２０２４年１２月　１日

風のように

甘木教会

牧師：竹田孝一

12どうか、主があなたがたを、お互いの愛とすべての人への愛とで、豊かに満ちあふれさせてくださいますように、わたしたちがあなたがたを愛しているように。　　１ テサロニケ3:１２

36しかし、あなたがたは、起ころうとしているこれらすべてのことから逃れて、人の子の前に立つことができるように、いつも目を覚まして祈りなさい。　　ルカ２１：３６

【説教要旨】「クリスマス―愛の訪れ」

教会暦は、キリストの生涯という暦です。降誕から始まり、終末にいたる教会の暦です。私たちも生まれ、終わりという私たちの生涯、私たちの歴史を作っていっています。私の生涯を私自身が、私の手で開き、作っているように自然と受け止めているかもしれませんし、ある運命の力で流されてきたと感じているかもしれません。しかし、「12どうか、主があなたがたを、お互いの愛とすべての人への愛とで、豊かに満ちあふれさせてくださいますように、わたしたちがあなたがたを愛しているように。」とパウロが祈るように、私の人生の歩み、歴史は、あなたがたを、お互いの愛とすべての人への愛とで、豊かに満ちあふれさせていただいた私たちの隣人の愛によってここまできたことです。歳を取り、人生を振り返る余裕が出てきまして、いかに多くの人に愛されて（大切にされ）ここまで来たかという事を実感できるようになりました。同時に私たちの隣人を与えてくださったのは、神であり、神の愛に私の生まれ、死ぬまで豊かに満ちあふれさせてくださいます。

今日から教会の暦は、新しくされ、聖書日課の福音書はC表のルカ福音書が読まれていきます。ルカはクリスマスの物語で救い主・イエス・

キリストが生まれたことを一番に知らされたのは、社会から離されていた孤立した孤独な羊飼いたちでした。この一年のルカによる福音書の日課が示してくださるメッセージは、隣人を通して神の愛が**愛とで、豊かに満ちあふれさせてくださいます**ということであり、同時に教会暦を貫くのは、神の豊かな愛に私の生まれ、死ぬまで豊かに満ちあふれて歩むのであるということです。

パウロも、手紙を通して**神の豊かな愛に私の生まれ、死ぬまで豊かに満ちあふれ**ているということをテサロニケの人々に伝えたように私たちにも教会暦の最初の暦に聖書のみ言葉が与えられました。

子どもが長く与えられなかったザカリヤ、エリサベトの夫婦のところに天使が子どもの誕生、洗礼者ヨハネの誕生を告げます。そしてイエスの誕生の先備えをしてくださいます。さらに、処女降誕という苦しみを負うマリアのところに天使が顕れ、救い主・イエス･キリストの誕生を告げます。神の訪れからすべてが始まります。愛の訪れの最初でした。

私たちの誕生も実は、神の愛の働きの導きの中にあったし、これから起きる私たち人生の物語一つ一つの中に神が、イエス･キリストが愛をもって訪ねてくださるのです。

「**主は今こそ、こうして、わたしに目を留め、人々の間からわたしの恥を取り去ってくださいました。**」（エリサベトに）、「**身分の低い、この主のはしためにも／目を留めてくださったからです。今から後、いつの世の人も／わたしを幸いな者と言うでしょう、**」（マリアに）、そして私たちに私たちの人生、神が、**神の愛で、豊かに満ちあふれさせ、わたしに目を留め**てくださった出来事が起きています。

エリサベトは長く子ども与えられず悩んでいたでしょう。婚約していたが、神から突如と子どもが与えられると告げられ戸惑うマリアがいます。苦悩にある自分を見ながら救いを信じ、戸惑いと不信仰にいる自分を見ながら神の真理（神の愛）と神の真実（隣人を通して愛された）を信じる二人がいます。

私たちの目からすれば、人生がたとえ私が思っていたようにならなくても私たちの人生は、愛をもって神が訪れてくださり、イエス・キリストという真の隣人が与えられ、そして神を、イエス・キリストを通して、信仰の友が与えられます。私たちの歩みは愛の訪れの連続です。

「それから、太陽と月と星に徴が現れる。地上では海がどよめき荒れ狂うので、諸国の民は、なすすべを知らず、不安に陥る。 26人々は、この世界に何が起こるのかとおびえ、恐ろしさのあまり気を失うだろう。天体が揺り動かされるからである。」ルカによる福音書21：25

激動する世界にあって、「この世界に何が起こるのかとおびえ、恐ろしさのあまり気を失うだろう。」という終末の様子を思わせる世界が私たちの今の時代にあり、どう生きることが良いのか私たちは日々、苦悩しています。しかし、今日から始まる新しい私たちの日々にも、私たちの教会にも、神は、イエス・キリストは愛をもって訪れてくださり、私たちの内に神の愛のみ手を働かせておられます。

私が数年働いた名古屋教会の記念誌に岸千年牧師が語られていたことを思いだします。「時は来り、時は去るのですが、変わりなきはキリストの限りもない愛です。教会は愛によってたてられ、愛によって与えられています。」と時は来り、時は去る私たちの生涯に神は、キリストは変わりない、限りもない愛をもって訪れてくださり、私たちの生涯に寄り添ってくださるのです。私たちのところに神が訪れ、イエス・キリストの愛が、神の愛が私たちの生涯を貫くということが、クリスマスのメッセージの一つです。

32はっきり言っておく。すべてのことが起こるまでは、この時代は決して滅びない。 33天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない。
36しかし、あなたがたは、起ころうとしているこれらすべてのことから逃れて、人の子の前に立つことができるように、いつも目を覚まして祈りなさい。とイエスさまは語りかけてくださいます。

私たちの生活の危機です。信仰の危機です。私たちの日々が苦しみと不安のやみに覆われてしまっていることをイエスさまはご存じです。どこに神がおられるのでしょうかという苦しみの闇の中にあっても、 神の愛で、豊かに満ちあふれている真実に「目を覚まして祈りなさい。」と。救いようもないこの世にあって、絶望して目を閉じ、心を閉じるのでなく、目を覚まして祈りなさいと私たちに語りかけてくださっているイエスさまがきてくださったのがクリスマスの出来事です。フランシスコ教皇は、「どうかあなたが来て、破壊があふれた場所に、今とは違う歴史を描き実現する希望があふれますように。」と祈ります。目を覚まして祈りなさい。

日毎の糧

その契約と定めを守る人にとって
　主の道はすべて、慈しみとまことです。詩篇２５：１０

永遠の神、しかも私たちの主イエス・キリストの父よ、私たちにあなたの恵みを与えてください。それによって、私たちが聖書をよく、熱心に学び、その中にキリストを求め、見出すことが出来るように、そしてキリストによって永遠の命を持つことが出来るようにしてください。神よ、み恵みをもって私たちをそのように助けてください。アーメン。

『ルターの祈り』　石居正己編訳　聖文舎

主により頼む

「ヤーウェに従う人は自分が罪人と記すほかに、契約と定めを守る人、貧しい人、更にヤーウェに望みを置く人、ヤーウェを畏れる人、とし、ヤーウェを仰ぎ望み、依り頼み、ヤーウェに目を注ぎ、身を寄せ、無垢でまっすぐであろうとすること、しかし、若い時には罪も背きもあり、貧しく孤独で、心は痛み、労苦を負っている。敵は憎んで網すなわち不法を仕掛ける。このように読むと本編が主に従う道に関する教訓詩であることが見えてくる」（詩編の思想と信仰Ⅴ　　月本照男　　新教出版　）です。

「ユわたしの神よ、あなたに依り頼みます。」とあるようにこの詩編は、いろはカルタのようにアルファベット詩篇です。「ユ」、いろはでいえば「ろ」です。いろはかるたが字やことわざなどを教えるようにアルファベット詩篇は、主に従うことの幸い、生き方を教える教訓詩です。

しかし、これをキリスト教信仰から、ルーテル教会の信仰から見るとき、この詩人も前提としてはいるのですが、１節の「主よ、わたしの魂はあなたを仰ぎ望みます。　わたしの神よ、あなたにより頼みます」というみ言葉が何よりも大切なものとなります。主により頼む、ここからすべての世に生きる教訓が始まります。

祈り：神よ、この一年もあなたへの信頼を歩ませていただき感謝いたします。来る年もあなたに信頼して歩むことが出来ますように。アーメン。

牧師室の小窓からのぞいてみると

「国連気候変動枠組条約第 29 回締約国会議（COP29）」会議が閉幕したが、国際社会の複雑な関係が反映して、結局気候変動へ対する十分な国際的対応が出来ずに閉幕した。南洋諸島の島が一つ沈もうと痛みを感じない COP29 に否定的な次期アメリカ大統領が選ばれ、自国主義が強くなり、世界はきっと滅びに確実に向かっていると思う。

「それから、太陽と月と星に徴が現れる。地上では海がどよめき荒れ狂うので、諸国の民は、なすすべを知らず、不安に陥る。 26 人々は、この世界に何が起こるのかとおびえ、恐ろしさのあまり気を失うだろう。天体が揺り動かされるからである。」ルカによる福音書 21：25

人間はかくも罪深く、愚かである。確かに教会は世界から振り向かれなくなったほど弱体化した今の時代だからこそ、弱ることなく神さまのみ言葉を伝える時ではないかと思う。

「33 天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない。」「36 しかし、あなたがたは、起ころうとしているこれらすべてのことから逃れて、人の子の前に立つことができるように、いつも目を覚まして祈りなさい。」とイエスさまは語りかけてくださっています。

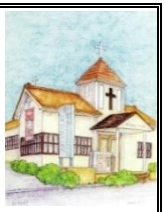
園長・瞑想？迷走記

日日草、ペンタスなど夏の花が元気に花壇に咲いていて抜くに抜けない状況がある。春花壇の準備が相当遅れている。園児が見る園の花壇は気候変動の中で私が幼かった時、見た光景とは違い、どう感じ、これからこの見える光景をどう発展させていくのだろうか。だいぶん変わってしまった光景になった。

私が見た光景も考えればその昔からすればずいぶん変わっていただろう。すべては変わるものだが、その変わり方が限界を超えて、子どもたちの存在が脅かされているというところまで来ているというところに私の見た光景の時代とは変わっていると思う。

子どもの命の危機を強く感じる日々の幼稚園の光景である。

甘木通信



東京に行くと寄るキリスト教の店がある。銀座の教文館、四谷のピエタ、ドンボスコ、パウロ書院である。今回も寄り、教文館では「つくってあそぼう　クリスマス」という工作の本、ピエタは、教皇の本、ドンボスコとはＴ十字架の購入、見慣れない言葉が気になるパンフレットがあった。「希望は欺かない　２０２５年の通常聖年公布の大勅令」という教皇フランシスコの勅令文であった。「通常聖年」とは教会の暦だろうと思いつつ、調べると、「2024 年 12 月 24 日にバチカンのサンピエトロ大聖堂の聖なる扉が開かれて開幕し、2026 年 1 月 6 日の主の公現の祭日に同扉が閉じられ閉幕する通常聖年」だということです。クリスマスから始まり翌年の顕現日に終わる教会の独自の年の解釈だと思います。２０２５年をどう生きていくかということです。ローマ信徒の手紙５：５「希望はわたしたちを欺くことがありません」というみ言葉から導かれ、２０２５年を「希望」を取り戻す機会となるようにという勅令です。

残念ながら、希望をもてない時代にあるが、「教会は、つねに時のしるしについて吟味、福音の光のもとにそれを解明する義務を課せられている。」というように時代と向かいあう中で、主・イエスに身をゆだねること、ここに安定、安全があり、希望があるというのです。具体的に２５か条に分けて今の時代を希望に生きるという事を語っています。「主イエス・キリストの再臨を信頼しのうちに待ちながら、わたしたちの今が希望の力で満たされますように。」と結ぶ。

（甘木日記）土）ミニバザー。皆で協力して出来たことは神への栄光。楽しいすばらしい時間だったと私は感じた。日）礼拝後、クリスマスの飾りつけの準備。いつものことだが、一年が終わったぽつり。変化の一年。春の花の苗を植えるのを手伝っていただき、帰宅。二泊三日。月）幼稚園が始まるが頭が働かずにいる。今週は羽村にいくので出来るだけ主日の準備をしたいが思うようにいかない。火）クリスマスの案内状を英語、タガログ語に変換。AI の技術のおかげである。最終飛行機で東京に。水）カトリックの書店を巡ったのち、羽村幼稚園の管理者会議。厳しい状況があるが、主に委ね乗り越えていこうと思う。木）奥さまを天に送られた恩師と会食。その後、教文館に寄り福岡に帰る。金）遠足、クリスマスの電飾付、施設評価のアンケートの集計と何をしているのか分からずにいると 21 時となる。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）ミニバザー。朝から準備であるがテキパキと楽しく準備する。少し冷えるが元気でやる。人数は少ないが、何よりも信徒同士が楽しくすること、そして近所の人と交わることが大切。私も多くの出費をしたが、今しか使うことはない。東京、福岡の合わせて３園の職員のクリスマスプレゼントを用意。夜は近くの温泉に家内と行く。家内が温泉酔い。いつまで、一緒に居れるか分からないと思うと寂しくも不安になる。そんな歳に互いになった。日）いつもの様に広い園庭を掃除。無心となり聖書日課を唱えたいのだがどうもなれない俗な自分がいる。礼拝後、楽しくクリスマスの飾りつけ。段々と春に花壇をしたいのだが夏花が元気でいるので開いたところに花を植える。遅く、送られて帰宅。２泊３日は少々疲れた。月）疲れが残っているのだろうか頭が回転しない。今日、一日、頭が疲れて

いることを感じる。明日から行くルーテル羽村幼稚園の行く準備。火）久しぶりに雨。雨の中で花の植え替えをする。今日はいつもより静かである。すぐに眠たくなる。なかなか本調子に感じられないがこれは普通なのかもしれない。夜、遅くに羽田に着く。鬱から回復した友人宅で一泊。一時はどうなるか心配。水）朝、お世話になった大森幼稚園の職員にクリスマスプレゼントを届ける。前任者、いつまでいては行けないと事務の方に渡して、四谷のドンボスコ、ピエタと店に寄る。ここで、「希望は欺かない　２０２５年の通常聖年公布の大勅令」という教皇のパンフレットが気になった。なぜなら、この大変化して、暗い社会だからこの社会と会話していく。そして希望を語らなければいけにと思っていたからである。昼食、南国亭による。安くて絶品。羽村幼稚園にも職員に感謝の気持ちでクリスマスプレゼントをもらっていただいた。管理委員会。厳しい状況にあるからこそ希望をもって運営するにはと感じながら一つ一つの議事を決めていく。木）奥さまを天に送られた恩師と会食。この歳になっても師と生徒になる。その後、幼稚園に何か良いものはないかと教文館に寄り、「つくってあそぼう　クリスマス」を購入。園児らと作れれば良いかな。福岡に帰る飛行機の中で、フィリピンの子どもたちのために何が出来るかずっと考えていた。計画書を作ろう。そう思っていると外の凄い景色にびっくり。これはご褒美かな。

金）遠足を雨天でどうするか決めなければいけないので、いつもよりも早く幼稚園へ。クリスマスの電飾付け、施設評価のアンケートの集計をしていると21時になる。夕食、遅く、また太る原因を作ってしまった。困ったものだ。